

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2012年5月

ISO/TC61/SC4(燃焼挙動)分野の最近の動向

ISO/TC61/SC4 はプラスチックの燃焼挙動に係るプラスチック共通の試験方法に関する規格を担当しており、現在、5つの追補を含め27規格が発行され、7つの開発中案件(内3案件を日本担当)、6つの開発計画案件(内4案件を日本担当)で活動し、幹事国は英国(BSI)、幹事は Mr. Michael、議長は Mr. Briggs(英)、昨年再構成した3つの作業部会(WG)で、日本を含む19ヶ国が P-メンバーとして活動に参加している。今後、TC61 直属の WG1(ライター)が SC4 に移動し WG10 として活動する予定である。

プラスチックは電気製品、建材、家庭用品から船舶・車両などの素材として広く用いられていることから、ISO/TC92(火災安全)、IEC/TC89 (電気製品の耐火性)、CEN/TC127 (建築材料の防火)、CEN/TC257(鉄道車両)、IMO(国際海事機関)など関係する分野との連携を深めており、規格の統合化も進んでいる。

本稿では ISO/TC61/SC4 の最近動向及び国内ミラー委員会 [当連盟の ISO/TC61/SC4 委員会：吉田主査(海上技術安全研究所)、国内委員会と呼称] の関連する活動状況の概要を記す。

1. WG2(燃焼生成物：煙及び腐食性)

コンベナーは、Mr. Sainrat (仏)で、「発煙性試験(ISO 5659-1~-3)」、「燃焼生成物による腐食性試験(ISO 11907-1~-4)」等の規格を担当しており、現在7つの規格が発行されている。発煙性試験の ISO 5659-2 を改訂する作業(仏担当)が DIS 段階で承認され、FDIS の回送を待っている。

2. WG8(着火性と火炎の拡大)

コンベナーは、Mr. Grayson (英)で、「着火源の分類規定(ISO 10093)」、「着火温度試験(ISO 871)」、「垂直、水平燃焼特性試験(ISO 9772,9773)」、「酸素指数燃焼性試験(ISO 4589-1~-3)」、「燃焼の広がり試験(ISO 12992)」、「燃焼発熱量に関する試験法(ISO 13927, ISO 21367)」、「試験炎による燃焼試験(IEC 60695-11-10,-20)」等の規格を担当し、現在12の規格と5つの追補が発行されている。

香月国内委員会委員が担当する水平及び垂直燃焼試験の改訂は、水平が FDIS 文書を、垂直は実施した RRT 結果を組んだ DIS 文書を作成中である。ISO 13927(簡易燃焼発熱量測定)の改訂(英担当)が CD 段階に進捗、また、IEC 60695-11-10 と-20 は、IEC/TC89 で改訂作業が進捗中である。

また、酸素指数3規格と燃焼の広がりの改訂を日本が担当して作業に着手した。

3. WG9(複合材及び中間製品)

コンベナーは、吉田主査で、担当の発行規格は、「複合材の燃焼挙動の一般指針(ISO 25762)」、「中間規模燃焼試験の指針(ISO 15791-1)」の2つで、開発中案件として、ISO 15791-1 の改正(独担当)、Pert2 の新規制定(仏担当)及び新規制定向けに吉田主査が担当する「複合材の耐火性試験(CD 30021)」の3つがある。

CD 30021 は、ISO/TC92/SC2(火災の封じ込め)との共同開発案件で、SC4 主導で、近々 DIS 段階へ進む。この規格の通則的位置付規格を TC92/SC2 主導で取進め中で、DIS 834-12 が FDIS へ向け進捗中である(吉田主査担当)。

4. JIS 規格への対応状況

国内委員会は、ISO に対応する 11 の JIS(WG2 分野：1 件、WG8 分野：10 件)と、対応 ISO の無い 1 つの JIS を管理している。今後は、対応 ISO の無い JIS K7217(燃焼ガスの分析方法)の改正、対応 ISO 5659-2 の改正作業が進捗している JIS K7242-2 (発煙性—シングルスモークチャンバによる煙濃度)の改正及び JIS 化していない ISO 10840 (燃焼試験のガイダンス)の JIS 化制定を予定している。

尚、ISO 10840 は、担当 WG が廃止され、現在は、SC4 が直接担当している。

以上